

---

# ラブカクテルス その41

風雷人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ラブカクテルス その41

### 【NZコード】

N4133D

### 【作者名】

風雷人

### 【あらすじ】

今宵のオススメカクテルは非課税にてお出しします。存分にご賞味あれ。

いらっしゃいます。  
どうぞこちらへ。

本日はいかがなさいますか？

甘い香りのバイオレットフレイズ？

それとも、危険な香りのテキーラサンライズ？  
はたまた、大人の香りのマティニー？

わかりました。本日のスペシャルですね。

少々お待ちください。

本日のカクテルの名前はポイント減税でござります。

じゅつくづくづく。

私は取り付けられた機械を見ながら思った。  
いよいよだ。

今年度より、新しく法律が改正されて、それが明日から施行される。  
それがポイント制課税の導入だった。

そのポイントとは、幾つもの項目で成り立ち、家庭内では良くある  
ことに対して、細かく設けられている、分かりやすく言えば普段失  
いかけている良い行いを正した事に対してのご褒美みたいなもの、  
と言う定義で発表された。

しかし本当のところは、国が抱える借金、つまりは国債をどうすれ  
ば帳消しに出来るかの、苦肉の策だったことは言うまでもなかつた。

そのポイントを具体的に挙げれば、家族全員が朝九時までに朝食を  
採れば、5ポイントの減税。十時までに家族全員が朝食を採ればボ

イントはなし。でも、十時までに家族全員が朝食を採れないと、5ポイントの増税になつた。

他に、家族同士の会話が一時間で2ポイントの減税。逆にそれ以下なら2ポイントの増税。

生活「ゴミが一週間で小さい指定の袋一つなら、1ポイント減税。それ以上なら2ポイント増税。

歯を磨く時、体を洗う時に、水を垂れ流していれば5ポイントの増税。などなど。

それらは、各家々に付けられたこの機械が、コンピューターと連動して審査し、税務署のマザーコンピューターへと送るシステムとなって、取り付けは義務付けされたが、タダだった。

プライベートの侵害になるとの声も多かつたが、機械は色々なセンターで判定を行い、それで出たポイントの数値だけが、マザーコンピューターに送られるとの説明で、その問題はさらりと解決。

その他に、沢山の不満が出たものの、結果が良い行いに繋がる訳なのだからと、反対派は思ったより大人しく引き下がつた。

しかし、これは私達主婦にはチャンスだつた。

いかに少ない夫の収入を手元に残せるかを、自分達の行いで何とか出来るのだから。

私はその項目をプリントアウトして、冷蔵庫と、トイレの壁、そして居間に、簡単そうなものに赤ペンで印をして貼り出した。

そしてその晩、家族を揃えて会議を開き、事の重大さを夫と、長女、長男にしつこいほど熱く語り言い聞かせた。

家族はあまり乗る気を見せなかつたが、夫にはこづかいアップ、子供には月に一度の外食を約束して、目に輝きのスイッチを入れることに成功したのだった。

翌朝、私はいつもよりも一時間早く起きて、嫌がる夫を無理矢理連れてジョギングに出た。

これはかなりの高ポイントで、消費した体力の量が審査の対象とな

る。従つて、走れば走るほど減税に繋がるのだつたが、いきなりのハードワークはかなり体に無理を掛けるので、初日は1km程度で済ませることにした。

しかし久しぶりに走つてみて分かつたが、朝方のジョギングとはいものだ。

清々しく気持ちいい。しかもポイントに繋がるのだから言つことはない。

これから毎朝やううと、夫に言つと、夫もまんざらでもない顔をした。

当然朝食は八時までに全員が食べて、それぞが出掛け行つたが、大事な事を言い忘れていた。

それは挨拶だつた。

一日に使う朝晩はもちろん、いただきますや、ご馳走様、おやすみなさい、そしてありがとうと、お困りですかは、かなりの高ポイントだつたのだ。

夫と子供に腕時計式のポイントカウンターを着けさせて、それらを言わせる。そんな大事な事を告げずに外に出させてしまつた。

私は大急ぎで家事を済ませ、買い物袋を下げる時、ポイントカウントを腕に着け、いつも曇ドラを見ている時間に買い物へと走り、誰か困つた人はいないか、何かありがたい事をされないかと、ドキドキしながら町を歩いたのだつた。

しかし、案外そんなチャンスは転がつてはなく、それでもありがとうを一件と、どうされましたかを一件獲得した。

だが、重大なことが分かつた。それは町中の人がライバルだとすることだつた。

年金暮らしの老人と、二十歳前までの若者、子供以外は全員がライバルなのだつた。

そんな中でのこの獲得ポイントは、初日ながらいい成績だと、それに気付いた後、自分で自分を讃美讃めた。

クタクタになつて帰つてからも、手作り料理はやはりポイントが高く、しない訳にはいかなかつたが、帰つて来た長女が手伝ってくれたおかげで、美味しい夕飯ができた。

私は自然と口からありがとうと言えた。

確かにポイントに繋がることではあつたが、それを素直に言える自分が、不思議と素敵だと思えた。

家族が揃い、テレビを消して食事をしながら会話が弾んだ。こんな風な食卓を囲むのは、思い起こせば何年ぶりだろう。夫もまんざりでもない顔をして、やつぱりこいつのものだと言つた。

この頃親離れしだした子供達も、今夜はよくしゃべり、私が知らないような学校事情なんかも、普段では垣間見ない様子も、笑つたり、叱つたりしながら、食べながら行儀が悪いのが分かつていても関わらず、顔をほころばせて楽しんだ。

そして食事が終わり、子供達が部屋に引き上げようとした時、時計をみると、会話を始めて一時間と四十五分だった。

私は、子供達と夫を無理矢理引き留めて、あと十五分会話に付き合うように言つた。

しかしそこは思春期の子供と、仕事疲れした夫。なかなかうまくはいかなかつた。

それでも私は思った。

無理をしないで出来る事から始めればいいんだ。つまりは日々精進である。

私は寝る支度を済ませると、ポイントカウンターを覗き、今日の減税ポイントはいくらかを見た。

初めてのポイントは42ポイント。

まあまあな数値だ。そして夜に夫婦の喫みを一ラウンド行えばつと。

私は夫が寝ないうちに床へと急ぐのだった。

それから一年が経ち、いよいよ納税日を迎えた。

町はかなりの盛り上がりで、まるで昔行われていた町内くじ引き大会のノリだった。

税務署にはバルーンが浮かび、一番の減税ポイント獲得者には、なんとキヤンペーンにつき、南の島国旅行をペアで招待されるとあり、税務署前には行列ができていたくらいだった。

私達も、かなりの気の使いようで事を進めてはきたが、やはり旅行券の獲得まではいかなかつた。

しかし結果は残り、来期からは夫のおこづかいアップと、週に、いや、二週間に一度の外食は出来るくらいの結果に、夫はまんざらでもない顔で、また来期も頑張ろうと、かなりの意氣込みを見せた。子供達は、外食は半年に一度でいいから、テレビをつける時間を増やしてほしいと提案してきたが、それはかなりポイントへの影響が出ることになるため、却下。

すると、それならと、子供達もこづかいアップを求めてきたため、しぶしぶ承諾したのだった。

しかし、一年を通してこの政策が行われた結果、町は人々の触れ合いで満ち、昨今増えていた犯罪なども激減。

人々は健康と環境に目を向け、家族はしつかりした絆で結ばれたのだった。

そしてそれはだんだんと定着していくことになり、ポイント目的だった行きも、礼儀という常識になつていった。

どうだ、大臣。わしの執つた政策は。

一石四鳥か、五鳥か、十鳥か。わはははは。はい、素晴らしい結果にござります。国民は健やかに過ぐり、とても温かな社会になりました。ですが、

ですが？何か問題でもあるのか大臣。

はい。実は、国の財政が、破綻いたしました。

結局人も国も金がないと動かないのか。  
トホホつ。

おしまい。

いかがでしたか？

今日のオススメのカクテルの味は。  
またのご来店、心よりお待ち申し上げております。では。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4133d/>

---

ラブカクテルス その41

2010年12月10日19時29分発行